

内容

< >犯罪被害者・遺族の声を聞いて	
ねらい：犯罪被害者・遺族の声を聞き、『命を守るために自分たちの立場でできることについて』のテーマで討議することで、教員自身が命の大切さ、命の危機に対する認識を持つ。	
所要時間：2時間	
準備物：教材ビデオ、ビデオプロジェクター、スクリーン、いす、机、筆記用具、タイマー、メモ	
内 容	
活動内容	留意点
(注) 太字は研修リーダーの台詞	(注) 印は留意点、 印は活動の意図
<p>00:00</p> <p>1 ねらいについて説明する。 「この研修のねらいは、犯罪被害者・遺族の声を聞き、『命を守るために自分たちの立場でできることについて』のテーマで討議することで、教員自身が命の大切さ、命の危機に対する認識を持つことです。」</p>	<p>研修のねらいを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犯罪被害者・遺族の声を聞く(ビデオ視聴) ・「命を守るために自分たちの立場でできることについて」のテーマで討議する ・教員自身が命の大切さ、命の危機に対する認識を持つ
<p>00:05</p> <p>2 ビデオを観る。 (1) 「今から、ビデオをご覧ください。このビデオは『犯罪被害者の人権を守るために』(約30分)^(参考6)(企画 法務省人権擁護局)です。」 (2) 「ビデオ視聴後、グループで感想も含めて話し合いの時間をもちます。ではご覧ください。」</p>	<p>事前にビデオを視聴し、その内容を確認しておく。 犯罪被害者の声を聞くことで、命の大切さや命の危機に対する認識を持つ。 要点のメモをとる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犯罪被害者・遺族の心理について ・犯罪被害者・遺族の人権について 等
<p>00:40</p> <p>3 4～5人のグループをつくる。 (1) 「近くの人同士で4人のグループをつくってください。人数が余れば5人グループでも結構です。」 (2) 「グループで輪になってください。」</p>	<p>近くの者同士が、4～5名1グループで輪になって座る。</p>
<p>00:45</p> <p>4 ビデオを観た感想を出し合う。 「先ほどのビデオは、犯罪被害者・遺族の人権の保護が社会的に重要な課題となっていることから、犯罪被害者・遺族の心理等について知ることが大切であるという内容であったと思います。 では、このビデオを観た感想をグループ内で一人2分程度、全体で10分程度で出し合ってください。」</p>	<p>互いに共感できるところ等を確認し合う。</p>
<p>00:55</p> <p>5 全体で話し合う。 「各グループで話し合ったことを、全体に</p>	<p>各グループで話し合ったことを、全体で共有</p>

<p>発表してください。」</p> <p>「先ほどグループで話し合っていたいただいた意見は、</p> <p>でした。」</p> <p>01:15</p> <p>6 フリートークで「命を守るために自分たちの立場でできること」についてグループ討議をする。</p> <p>「続いてグループで『命を守るために自分たちの立場でできることについて』フリートークをしてください。なお、後で全体討議をしますからその時の発表者を決めておいてください。時間は15分間です。」</p> <p>01:30</p> <p>7 全体で討議をする。</p> <p>「先ほど各グループで話し合った内容を発表してもらいます。各グループの発表者の方は3分程度で発表してください。」</p> <p>8 全体討議のまとめをする。</p> <p>「先生方のご意見をまとめます。私たち自身が、犯罪の被害にあったり、遺族になったりすることは十分起こりうることで、加害者を生み出さない等、犯罪を防ぐために自分たちに何ができるかという意識を持つこと</p> <p>犯罪被害者・遺族の方々の心理や人権について正しく理解すること等、私たち自身が犯罪被害者・遺族の方々の立場に立って考えることが何より大切なのではないのでしょうか。」</p> <p>01:55</p> <p>9 まとめをする。</p> <p>(1) 「本研修のねらいは、ビデオをとおして犯罪被害者・遺族の声を聞き、『命を守るために自分にできることについて』のテーマで討議し、教員自身が命の大切さ、命の危機に対する認識を持つことでしたが、いかがだったでしょうか。」</p> <p>(2) 「ぜひ、本研修の体験を生かしていただき子どもたちにも、命の大切さやかけがえのなさを実感させていただきたいと思います。本日はご多忙の中ありがとうございました。」</p> <p>02:00</p>	<p>する。</p> <p>話の要点は事前にメモをとっておく。</p> <p>グループ内で「命を守るために自分たちの立場でできることについて」のテーマで、フリートークをする。</p> <p>グループ討議の内容をもとに全体で討議する。</p> <p>教員自身の犯罪被害者・遺族に対する意識の持ち方が何より大切であることにふれる。</p> <p>本研修で学んだことを確認する。</p>
--	--

(参考6)『犯罪被害者の人権を守るために』(財)人権教育啓発推進センター:約30分) 内容
犯罪被害者・遺族の人権の保護が社会的に重要な課題となっており、犯罪被害者・遺族の心理やその人権を守るためにはどうしたらいいかについて述べている。
犯罪被害者・遺族の心理については、事件直後の心理状況として、「ショック」「悲嘆」「不信の念」「否認」「感情麻痺」「感情の爆発」「過剰な警戒心」「疎外感」「焦燥感」「無力感」「絶望感」等の情緒的反応が見られるとして、具体的な犯罪被害者・遺族の声を紹介している。また、犯罪被害者・遺族の人権として、「被害回復の権利」「二次的被害から守られる権利」「知る権利」「支援を受ける権利」等をあげ、行政と民間の協力体制の必要性についても述べている。

【参考・引用文献】

- ・ (財)人権教育啓発推進センター ビデオ『犯罪被害者の人権を守るために』2004